

大東ふるさとカルタに見る地域遺産④

『ないりそ勿入の
鯉の散らし紋
いまいずこ』

平安時代のころ、なぐりゝのふち勿入渚と呼ばれた大きな池がありました。平安時代中期（10世紀末ごろ）の清少納言の随筆『枕草子』には「淵はなぐりその淵 たれにいかなる人の教えしならむ」（淵は、なぐりその淵。だれに、どんな人が入るかと教えたのだろうか）と記されています。また応永22

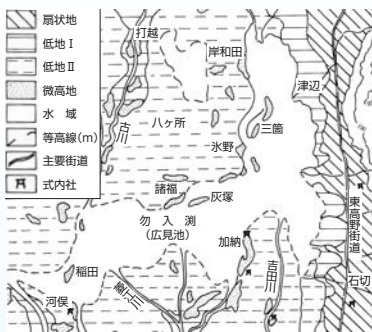
なくならず、多くの伝承や文学作品に残されており、中でも井原西鶴の『西鶴諸国ばなし』巻四「鯉の散らし紋」が有名です。この池の堤に住んでいた内助のかわいがっていた鯉が、内助が女の人と結婚したことに嫉妬し、漁をしている内助を襲って去っていったというお話です。

現在の大東市から東大阪市にかけての一带には、かつて大きな池が広がっていましたが、それがこの勿入淵にあたると考えられています。

現在、諸福6丁目に勿入湊址の碑（府が昭和6年に建立）が残されています。

(生涯學習課)

801) 年刊
行の『河内名
所図会』に
「勿入淵」の
文字を見るこ
とができます。
江戸時代に
至るとこの池
は縮小し、か
つての面影は



勿入測推定図



勿入湊址の碑（諸福6丁目）

